

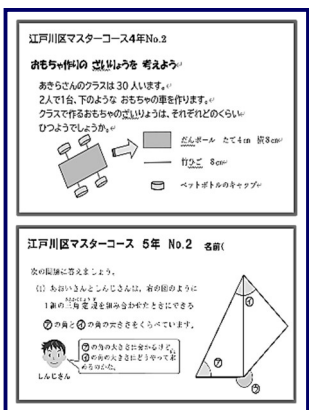


令和5年度から江戸川区では児童・生徒の学力向上に力を入れています。「2030年の江戸川区 SDGsビジョン」に示す「確かな学力の向上」を実現するため、江戸川区立小・中学校と江戸川区教育委員会が力を合わせ、江戸川区の子どもたちの学力をさらに高める取組を進めています。令和6年度は、小学校国語、算数、中学校国語、数学、英語の学力向上プロジェクトチーム(PT)を設置しました。

2026年度(令和8年度)の全国学力・学習状況調査(文部科学省)では、正答数四分位の分布におけるC・D層の児童・生徒割合について都と区の差を解消すると共に、江戸川区立小・中学校の平均正答率が、東京都全体の平均正答率を上回ることを目指します。

【学力向上プロジェクトチーム 小学校算数分科会の取組】

▼ 算数授業スタンダード



▲ マスターコース問題例

▼ 学習カルテ

4年生学習カルテ(7月) 4年 編 名	4年 編 名
1 整数の表し方(4年)	1 2 3
2 整数のたし算	1 2 3
3 整数のひき算	1 2 3
4 整数のかけ算	1 2 3
5 整数のわり算(4年)	1 2 3
6 小数の表し方	1 2 3
7 小数のたし算	1 2 3
8 小数のひき算	1 2 3
9 分数の表し方	1 2 3
10 分数のたし算	1 2 3
11 分数のひき算	1 2 3
12 式による表現	1 2 3
13 いろいろな単位と測定	1 2 3
14 割合と割合の単位	1 2 3
15 円と税	1 2 3
16 肉の大きさ(4年)	1 2 3
17 折れ線グラフ(4年)	1 2 3



◀ 授業公開での協議会の様子
(東小松川小学校)



筑波大学附属小 森本隆史先生による
公開授業の様子(東小岩小学校)

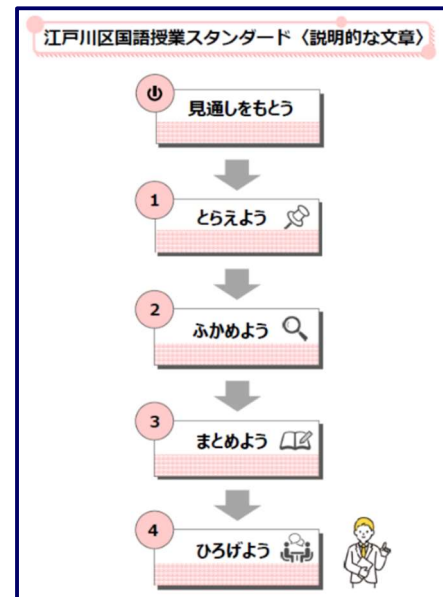
【個に応じた学習】

定期的に学力定着度調査を行い、児童が苦手としている分野などを把握し、授業改善に活かしています。また、「学習カルテ」を使って、児童自身も自己の課題を把握し解決に向けて取り組めるようにしています。

算数の応用力を高めるための発展的な問題「マスターコース」も作成し、学校で活用できるようにしています。1時間の授業のプロセスを大切にする「算数授業スタンダード」を基にした授業公開や、筑波大学附属小学校 森本 隆史先生を招いた授業公開など、積極的に研修会を開催し、教員同士が学んでいます。

【学力向上プロジェクトチーム 小学校国語分科会の取組】

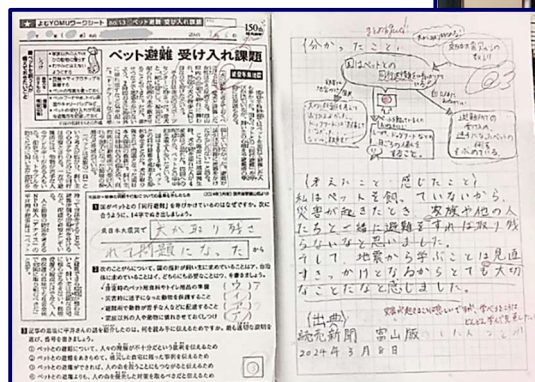
▼ 国語授業スタンダードの策定



【子どもの読み解く力の向上】

夏休みに先生方を対象に新聞記事教材「よむYOMU ワークシート」の効果的な指導方法を学ぶワークショップを開催しました。よむYOMUワークシートを活用することで、文章を短時間で読み解き、新たな問いや自分の考えもち表現できる子どもの育成を目指しています。

▼ ワークショップの様子(船堀第二小学校)



▲ 新聞記事を読み解き、自分の考えを表現した児童のノート

【教員の授業力向上】

小学校の国語では、説明的文章の授業力向上に力を入れています。子どもたちが主体の国語科授業が展開されるよう「江戸川区国語授業スタンダード<説明的な文章編>」を全教員に配布しています。

【学力向上プロジェクトチーム 中学校国語分科会の取組】



【読解力の向上】

新聞記事を活用した教材を活用し、学習の基盤となる「読解力の向上」を図っています。2学期は具体的な教材の活用方法について「ワークショップ」を開催し、授業方法の工夫・改善について教員同士で理解を深めました。生徒が、社会にあふれている情報を整理し、自分の生活に生かすことができる資質・能力を育てるため、朝学習や国語の授業の改善方法を発信していきます。

◀ 新聞記事を活用した教材(読売新聞社ホームページより)



▲ 授業公開の様子(南葛西第二中学校)

【学力向上プロジェクトチーム 中学校英語分科会の取組】

▼ 教員の実践から学ぶ研修の様子



【教員の実践から学ぶ研修】

経験ある先生が録画した授業を解説してもらい、英語を使った活動場面について協議しました。素晴らしい実践から多くのことを学び、自身の実践に生かしています。

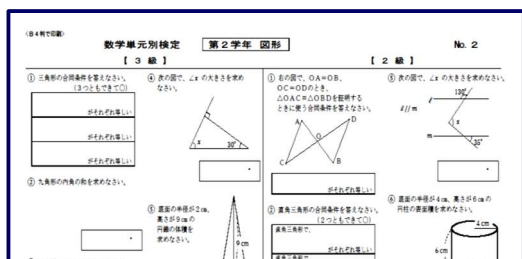
【ALT派遣事業者と連携した研修】

約 20 名のALTが教員研修に協力してくれました。4～5人の先生方とALTがグループを組み、生徒が楽しく熱中できる授業について考え、即興で授業づくりをしました。

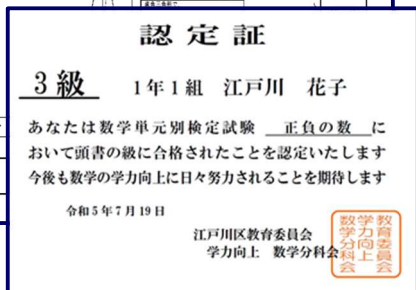


▲ ALT派遣事業者と連携した研修の様子

【学力向上プロジェクトチーム 中学校数学分科会の取組】



◀ 学習定着度の向上を図ることを目指して実施する「単元別検定・認定証」



▲ 「数学総合検定」に合格した生徒に「合格証」が授与される

【基礎・基本の定着】

昨年度『単元別検定』を実施した中学校では、8割以上の生徒が3級に、5割の生徒が2級に、1割の生徒が1級に合格し、「認定証」を授与されました。事後アンケートをもとに、出題内容や問題数等を改善し、今年度も14校で実施しています。

『数学総合検定』は、基本的な知識・技能を用いて解く問題に加え、これからの時代に必要な「問題文を読み解いて解決する力」を向上させることをねらいとし、区内全中学校の第2学年を対象に実施します。今年度も2月下旬～3月に実施予定です。